

2. 火山の概況

(平成16年4月22日 ~ 平成16年4月28日)

浅間山では地震がやや多い状態が続いた。火山活動度レベル(以下レベルと記載)は2。

伊豆東部火山群では地震が一時多発した。

三宅島では噴煙活動が継続した。

阿蘇山では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。レベルは2。

桜島では噴火が発生した。レベルは2。

諏訪之瀬島では噴火が発生した。

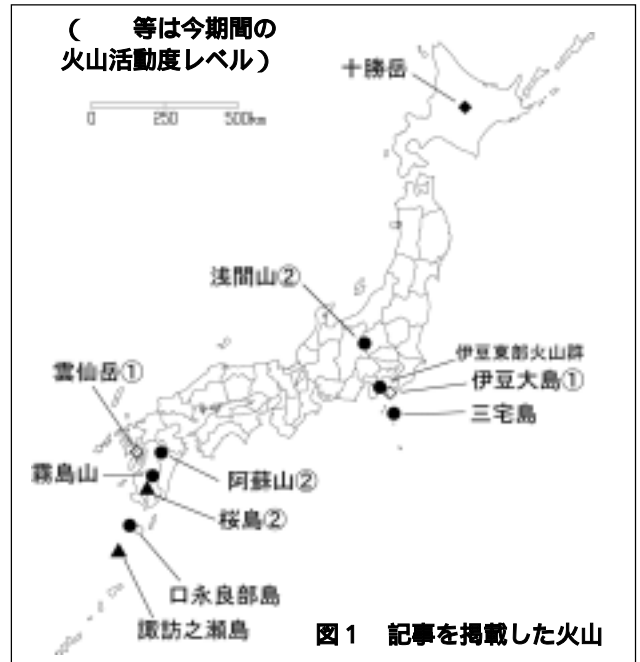


図1 記事を掲載した火山

表1 最近1か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		十勝岳	伊豆東部火山群	三宅島	霧島山	薩摩硫黄島	口永良部島	諏訪之瀬島
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号									
19	4/29- 5/ 5																	
18	4/22- 4/28																	
17	4/15- 4/21																	
16	4/8- 4/14																	
15	4/1- 4/7																	
14	3/25- 3/31																	

(: 気象庁職員が山頂付近で作業を行った際に、山頂付近に限定されると思われる微弱な降灰を確認した。これまでも同様の現象はあったものと思われる。)

注1 記号の意味

- : 噴火した火山
- : 観測データ等に变化があった火山
- : 前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- : その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字: 火山活動度レベル

注2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、变化があった観測データ項目を示す。

十勝岳

19日に有色噴煙を伴う小さな火山性微動が観測されて以降、同様な現象は発生していない。62-2火口からの噴煙は多い状態が続いているが、地震活動や地殻変動に特段の変化はなく、火山活動が活発化する様子は見られない。

22日に実施した火口調査で、62-2火口周辺にわずかな降灰の痕跡が認められた。この降灰は、2~4月に観測された有色噴煙によるものと推察される。

浅間山 [熱・地震・微動] レベル2 (やや活発な火山活動)

26日に気象研究所・軽井沢測候所が実施した火口の観測によると、火口内の形状は、前回の観測(2003年10月)に比べて大きな変化はみられなかった。赤外熱映像装置による火口内の温度観測では、最高が423 と、2003年5月の同642 に比べると下がってはいるが、依然高い状態が続いていた。

赤外線カメラ(群馬県林務部が火口縁に設置)では、火口底に引き続き高温部が確認され、前期間と同様に、一時的にその面積が拡大する現象が時折見られた。

振幅の小さい地震は、昨年6月末頃からやや多く観測されるようになってきているが、今期間も19~75回とやや多い状態が続いた。振幅の小さい微動は7回観測された(前期間は12回)。

伊豆東部火山群 [地震・地殻変動]

24日20時頃から伊東周辺で地震活動が活発化し、28日未明には一旦収まったものの、同日20時頃からやや北部の宇佐美沖で増加した(図2)。広域の地震観測網によると、最大規模の地震は28日23時18分頃に宇佐美沖で発生したM(マグニチュード)2.0(暫定値)で、震度1以上を観測した地震はなかった。この地震活動の発生当初から、東伊豆に設置された体積歪計^{ひずみ}に縮みの変化が見られた。また、前述のM2.0の地震の発生に伴っては、大崎(宇佐美付近)に設置された傾斜計にも変化が見られた。火山性微動等は観測されなかった。

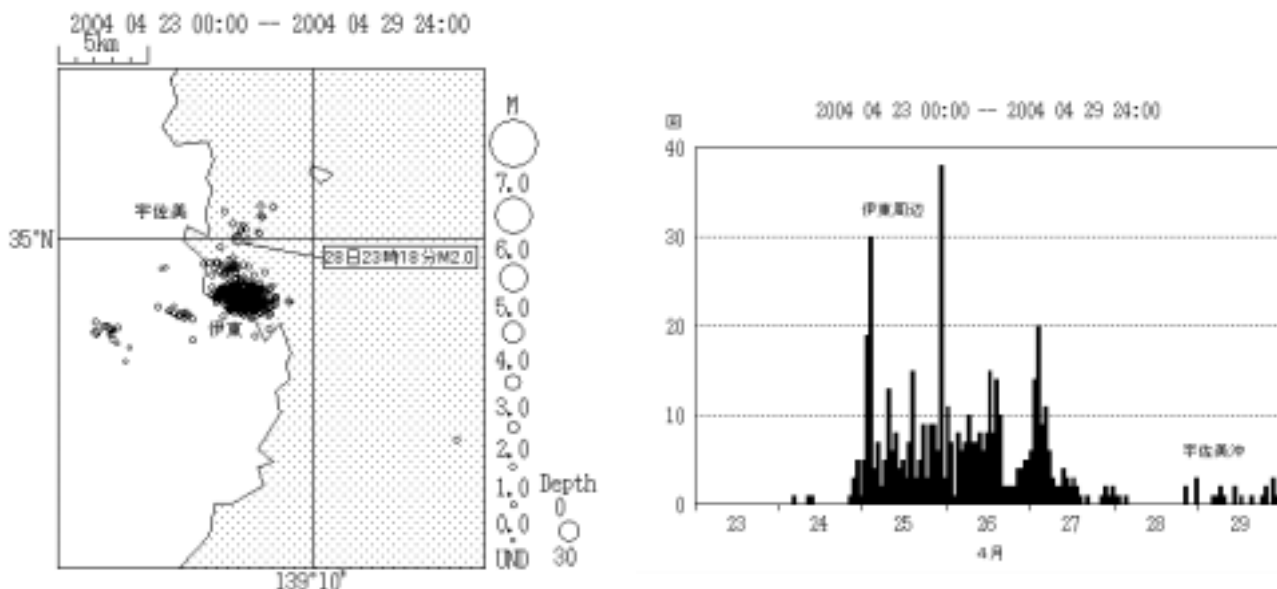


図2 伊豆東部火山群 4月23日~29日の地震の震央分布図(広域の地震観測網による)(左)及び時間別発生状況(右)

伊豆大島 レベル1(静穏な火山活動)

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなかった。

三宅島 [噴煙]

白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出しており、期間中の高さの最高は火口縁上500mであった。振幅の小さいやや低周波地震は、1日あたり1~8回と少ない状態で推移した。GPSによる地殻変動観測では、昨年6月頃から始まった三宅島の収縮傾向が継続している。

阿蘇山 [熱・土砂噴出・微動] レベル2(やや活発な火山活動)

中岳第一火口では熱的な活動が引き続き活発で、小規模な土砂噴出が継続した。

23日に阿蘇山測候所が行った現地観測によると、中岳第一火口の状況は、湯だまりの色は灰色、湯量は約3割(前期間も約3割)で、湯だまりの表面温度の最高は70(前期間75)、火口壁の最高温度は383(前期間348)と依然高温状態にあった。湯だまり中央部で約5mの土砂噴出が観測された他、湯だまり南西縁の噴気孔から勢いよく噴気を噴出し、噴気音は前回よりやや大きくなって、誰にでも聞こえる程度であった。

期間中、連続微動を観測した。また、孤立型微動は今期間818回発生し(前期間は632回)、依然として多い状態が継続している。

噴煙は白色で、噴煙の高さの最高は火口縁上400m(前期間200m)であった。

地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

雲仙岳 レベル1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも特段の変化はなかった。

霧島山 [噴気]

24日、25日、26日及び28日に御鉢で火口縁を越える噴気が遠望カメラで観測され、その最高は火口縁上500mであった。火山性微動は観測されなかった。

桜島 [噴火] レベル2（比較的静穏な噴火活動）

期間中、噴火が2回発生した（前期間は1回）。噴煙の高さの最高は火口縁上1,100m（灰白色）であった。鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では、昨年11月19日を最後に降灰は観測されていない。

口永良部島 [地震]

地震の発生は、2月2日に多発して以降増減を繰り返しているが、今期間も短時間に集中して発生することはなく、期間中の合計は17回であった（前期間は20回）。火山性微動は観測されなかった（前期間は23回）。

諏訪之瀬島 [噴火・微動] <期間外の記述を含む>

28日に噴火が1回あり、遠望カメラによると、噴煙の高さは火口上700m（灰白色）であった。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、28日に多量の火山灰を含んだ噴煙が上がっていた。集落（御岳の南南西約4km）では降灰はなかった。

噴火は29日にも2回発生し、遠望カメラによると、噴煙の高さの最高は火口上1,000m（灰白色）であった。

28日に火山性微動が多発し（24回）、今期間の合計は28回であった（前期間はなし）。28日には連続微動も発生した。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第222号 (1日2回発表)	22日 09:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第235号	28日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第25号	23日 11:00	火山活動は引き続きやや活発（孤立型微動やや多く発生、連続微動発生、小規模な土砂噴出多数発生、湯だまりの高温状態継続）。レベルは2。
霧島山	火山観測情報第21号	23日 11:10	御鉢の噴気活動は消長を繰り返している。